

男子の夏休みのイベントといえば昆虫採集ということで、息子を連れてカブトムシ捕りへ行ってきました。私の捕獲方法は夜間の街灯採集なのですが、今年は蛾の大量発生の方に当たってしまい、おびただしいほどの蛾の大群に襲われながらデンジャラスな採集となりました。但し、その街灯自体も時代の波に逆らえずLED化が進行しており、以前に比べて光源に集まる虫の数が減少していました。最近はおつぱら捕獲場所開拓のための情報収集に精を出す日々となっております。

今回捕獲できたカブトムシは24匹と例年に比べて不甲斐ない結果となりました。満足できていないため、次は大量に捕獲ができるよう入念にリサーチしたいと思います。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



～夏の思い出、海とララと私の週末～

夏もいよいよ終わりが近づいてきましたね。皆さんは、どんな夏を過ごされましたか？

キンキンに冷えたビールで乾杯したり、夏祭りで夜空に咲く花火を見上げたり、海やプールで思いっきり泳いだり…。そんな夏らしい時間を満喫できたでしょうか？

私はというと、週末のほとんどをカリフォルニアの海で過ごしていました。もともと島国育ちの私は子どもの頃から海が大好き。でも大人になると、なんだかんだで海に行く機会も減ってしまっていました。

そんな私がまた海と仲良くなれたのは、カリフォルニアに引っ越してから。そして、パドルサーフィンとの出会いがきっかけでした。こちらアメリカでは、ワンちゃんと一緒に海を楽しむ人がとても多くて、サーフボードの上に愛犬を乗せて波に乗ったり、泳いだり…。みんなとっても楽しそうで、見るだけで癒される光景が広がっています。

私もその姿に影響を受けて、愛犬のトイプードル・ララちゃんと一緒にパドルサーフィンを始めてみました！最初はちょっと緊張気味だったララも今ではすっかり海が大好きに。ボードの上にちょこんと座って風を感じる姿は本当に愛おしくて、私の癒しの時間です。

みなさんの国では、ペットと一緒に海を楽しむ文化ってありますか？



KCS(アメリカ)(GM: Ayano Donnelly)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、船橋市場(船橋市地方卸売市場)を紹介いたします。

船橋駅から徒歩で15分ほどの場所にある卸売市場で、1969年に中央卸売市場として開業しています(私の生まれた年です…)。

2014年4月から地方卸売市場に転換となるまでは、千葉県内に2つ存在した中央卸売市場の一つでした。また県内の卸売市場のうち、唯一地方公営企業法の適用を受けた地方公営企業となっています。

市場の生い立ちの説明で堅い話になってしまいましたが、私たち一般の人が興味あるのは、関連業者店舗棟という一般の人が入れるエリアだと思います。寿司屋、定食屋などの飲食店の他、鮮魚、精肉、海産物などの食料品や駄菓子を取り扱う店舗が軒を連ねています。市場内ということもあり、朝6時からお昼ごろまで営業している店舗が多いようですが、寿司屋は午前中から行列ができていましたし、駄菓子屋は家族連れ、子供たちでにぎわっていました。私もお値打ちな食料品を購入しました(こども盛況でしたが…)。

営業時間は限られていますが、食事、買い物で訪れてみてはいかがでしょうか。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

先月はトヨタ産業記念館(名古屋市)に行ってきましたが、情報収集していると豊田市博物館エジプトとヒットしました。こちらクルマのトヨタ博物館のつもりでいたのですが、調べてみると愛知県豊田市にある豊田市博物館はカーメーカーとは関係なく別物でした。

そこで『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』が開催されています。私も妻もエジプトには興味があるので行ってみました。音声解説もお借りし中に入ると、石盤に描かれた絵や古代文字盤など、5000年前の文化が垣間見えます。絵画からは当時の暮らしや食べ物などがわかり、興味深い。人間のミイラが2体と猫のミイラもあり、紀元前から共存していたことがわかります。当時の人気の職業は『書記』で誰もが憧れの職業だったとのこと。今考えてみれば、書記の位が高く人気だったことでこれだけ多くの石盤が残り、我々も5000年前の当時の様子がわかるのだと思うと、感慨深くなりました。

このエジプト展は豊田では9月7日までですが、その後広島、福岡と回って行くので西日本の皆さんはまだ見るチャンスがありますよ。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

高知県の景勝地・桂浜へ足を運ばせていただきました。

桂浜といえば、太平洋を望む雄大な景色と坂本龍馬像で大変有名な場所です。天候にも恵まれ、目の前に広がる青い海と白い波、そして松林が織りなす白砂青松の浜の風景に見とれてしまいました。特に龍馬像と目の前に見える海の景色は、『新しい時代を切り開く力強さ』を感じさせてくれるものでした。

桂浜の自然と歴史にふれることで、坂本龍馬のように新しい発想やエネルギーを感じたいと思いました。波打ち際のように柔軟に対応し、松のように揺るぎないパワーを持てるよう努めてまいります。

まだまだ暑さの続く時期ですが、どうぞご自愛くださいませ。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

2週間前に家内と家内のお姉さんの3人でカリマンタン島のサマリンダに行ってきました。2日間だけの短い旅行です。お姉さんは20年前にサマリンダに住んでいたことがあって、家を買ったことがあります。その家を売りたいとのことで、手伝いを頼まれて同行しました。飛行機で約2時間ちよつとかかるところです。

実は、サマリンダは自分の父が生まれた所でありながら、自分が生まれてから1回も行ったことがなく、今回が初めての訪問です。父の親戚はまだたくさん住んでおり、行く前のサマリンダのイメージは田舎でした。まあ、やっぱり少し田舎の雰囲気があります。

食事のためにショッピングモールに行ったのですが、若い女性のお化粧の仕方はジャカルタ女性のお化粧の仕方とほとんど変わらなくてびっくりしました。現在、ソーシャルメディアなどで他の町や世界中の情報を得やすくなっているおかげだと思いました。女性のお化粧、ファッションなどに田舎のイメージは全然ありません。レストランもいろいろありますが、残念ながら日本のレストランはまだ一軒も見かけませんでした。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～1,000万円でも買えない～

中国のナンバープレートのお話です。乗用車なら蘇州は蘇E+5桁、南京は蘇A+5桁の形が一般的です。ナンバープレートからも中国の文化や歴史、人々のこだわりなど面白い側面が見えてきます。

『蘇』は江蘇省の『蘇』、次のアルファベットは省都が必ずAとなります。江蘇省の省都は南京ですが、浙江省であれば、杭州市のナンバーが浙A1234Sなどとなるわけです。省を表す最初の文字は京=北京、黒=黒竜江省、川=四川省、遼=遼寧省など省名に含まれる一文字かと思いきや、ちょっと地理や歴史をさぐって「なるほど」と納得の『応用編』も

あり、興味深いものです。例えば山東省は『魯(ろ)』。魯は紀元前11世紀から紀元前1世紀あたりまで山東省に存在した国からきています。湖南省なら省内の最も大きな河、湘江を表す『湘』のナンバーです。

そして、ラッキーナンバーが大好きな中国では、縁起のよい8のゾロ目は高額オークションとなります。例えば、蘇A8888のようなスペシャルナンバーは超高値で落札され、1,000万円でも買えないほどの高騰ぶりです。8が3つという番号は見たことがありますが、8888はいまだに見たことがありません。どこかの大金持ちが乗っているのでしょうね。一度見てみたいものです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

～喫煙の自由…?～

多くの国では喫煙場所を見つけるのは簡単かもしれませんが、今日、世界は喫煙者に対していくつか規制を設けていますが、それでも好きな時に喫煙するのは比較的簡単です。しかし、シンガポールの興味深い事実を知れば驚くはずで

ベイプと呼ばれる新しいタイプのタバコは、すでにシンガポール全土で禁止されています。観光客であってもベイプをシンガポールに持ち込んではいけません。もし、見つかった場合は罰金が科せられます。当局は喫煙場所を制限することで、喫煙者をさらに困難な状況に追い込んでいます。

最近の規制では、公園やレクリエーションエリアでの喫煙を禁止しています。代表的なショッピング街であるオーチャードでは、指定された黄色いボックス内でのみ喫煙が許可されています。

今後、シンガポールは喫煙行為を制限し続けるか、完全に禁止する可能性があります。以前、ベイプやチューインガムでも同様の措置をしたことがあるため、不可能ではありません。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

この時期のヨーロッパはホリデーシーズンで、どの国も7月と8月に夏休みがあります。そこで私たち家族は南フランスへ旅行することにしました。素敵な地域ですが、以前にも何度か来ているので、あまり新しい発見はありません。

旅行好きな私は新しい地域や文化を体験したいので、休暇中にスペインのピレネー山脈へ小旅行することにしました。山の中腹(標高1200m)にあるホテルに泊まりました。ここは通常スキーリゾートですが、夏は他のアクティビティもたくさんあります。

ある日、私たちはボディリフトキットと大きなタイヤを装備した特別な4WDタクシーを手配し、山頂(標高約3000m)まで連れて行ってもらいました。私たちは登山経験がないので、下りの方が楽です。山頂までの最初の部分は舗装道路でしたが、すぐに岩だらけの道に変わりました。これが本当にでこぼこした道で、とても急な斜面と大きな岩があり、普通の車では通れません。なぜ特別に用意されたランドクルーザーやランドローバーしか使わないのかが理解できます。山頂までは車で約1時間かかり、そこからは小さな山道をずっと歩いて下山する必要がありました。景色は息を呑むほど美しく、高台からは辺り一面が見渡せ、本当に静かで車や人混みもなく、ただ自然だけが広がっていました。このルートは3つの山岳湖とたくさんの滝を通り抜けます。こうした山々と森の中を歩くのはまさに冒険のようでした。

母なる自然が創り出すものを目の当たりにすると、自分の小ささに気づかされます。忘れられない経験となりました。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)